

## 偶 感

独立行政法人国立病院機構東広島医療センター 院長 竹崎 英一

私の尊敬する先輩の一人にN先生がいる。そのN先生が病院を辞職される送別会で、病院を去られる心境を「散る桜、残る桜も、散る桜」に託された。当時の私は浅学にして、この句の意味する深さを知らなかったが、先輩の日々の診療姿勢、および日頃の同僚を思いやる心情とを重ね合わせてなぜか感動したのを今でも鮮明に記憶している。去りゆくN先生のすがすがしさというか、寂しさというか、いろいろの感慨にふけた。

この句は、江戸時代の曹洞宗の僧侶で、歌人でもあった良寛和尚の辞世の句と言われている。意味は、「今どんなに美しくきれいに咲いている桜でもいつかは必ず散る。そのことを心得ておくこと」というように受け取られている。すなわち、物事にはすべて結果があることは言うまでもない。ならばどう時間を過ごすのかを考えること、限られた「いのち」の中で、その結果に至るまでをいかに充実したものにし、悔いの残らないようにすることが大事であるかを、桜のはかなさと重ね合わせて、その見事な美しさに例えているのだろう。

凡人である私には、N先生が辞職時の心境をこの句に託された思いを知る由もない。が、私なりに解釈すると、自分が去った後、残った後輩たちに懸命に仕事に励み、悔いが残らないように、精一杯人生を楽しみなさい。と、暗に伝えられたのではないかと想像している。

病院勤務医に求められるのは、優秀な人材であることはもちろんであるが、チーム医療という言葉が示すように、協調性があり、個々の集団を統率するリーダーシップを発揮する人材である。これは理想的な勤務医像を示しているが、しかし、現実には厳しいこともある。長い勤務医生活の中で、人間関係あるいは病院方針などに対して不満・ストレスを間々感じることもある。時にはそのために衝突、失意があり、あるいは、深酒に逃げることもある。これは医療の世界だけでなく、多くの職種の社会人が経験していることであり、医師も一人の人間であり、長い勤務医生活で、常に己を忘れず、常に充実した勤務医生活を過ごすことは困難であり、その中で苦悩・葛藤することもある。

良寛和尚の句のように自分を律することは難しいが、節目ごとに自分を振り返るときに、自分を戒める言葉としてこの句を大事にしたいと思っている。この句の解釈とは別に、句には余韻があり、それぞれ読んだ人によって感じるものが異なる。私は一抹の寂しさを感じる。申し訳ないが、この句の最後に“散る桜、大空を舞う”を加えたら、句が有する尊厳さを損なって、良寛和尚に怒られるかもしれない。しかし、現代は多くの可能性があり、多様である。一つの仕事をなし終えたとしても、さらに次の飛躍を待っている。句が発する寂しい余韻が希望に変わらないかしら…自分を叱咤激励するためにも。

### 団体定期保険 反社会的勢力への対応について

当会にて契約しております団体定期保険（グループ保険）につきまして、反社会的勢力との関係遮断の一環として、保険契約を解除する根拠となる「重大事由」に以下の内容が記載され、万一、反社会的勢力が混入した場合に、保険金・給付金などが支払われないよう対応しております。

（経理課）

契約者・被保険者・保険金などの受取人が、暴力団などの反社会的勢力に該当すると認められるとき、または反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるときなど